

通信制課程におけるICTの利用について

—「通信」手段の変革—

長野県松本筑摩高等学校 通信制

根間菜穂美

中田 景子

杉山 信司

1. はじめに

(1) 本校の概要



本校は、令和2年に50周年を迎えた、長野県松本市にある定時制通信制独立校で、通信制課程は、長野県中信・南信地区唯一の県立通信制高校である。

昭和40年代初頭に長野県中信地区への定通独立校設置の機運が高まり、昭和44年に設置が決定され、「松本筑摩高等学校」が誕生した。昭和52年に全日制普通科が開設されたが、平成22年に閉課程となる。

現在、通信制課程の他に定時制午前部午後部、定時制夜間部があり、長野県中南信地区の定時制通信制高校の中心校としての役割を担っている。いずれの課程も不登校や複雑な家庭環境等 様々な背景を持つ生徒が、多く在籍している。

【教育目標】

本校の教育は定通の和を尊び、理想の追求を象徴とする校章と校歌に示された精神をもとに

- | | | | |
|----------|----------|----------|--------|
| 1. 知性の涵養 | 2. 品性の陶冶 | 3. 心身の練磨 | を目的とする |
|----------|----------|----------|--------|

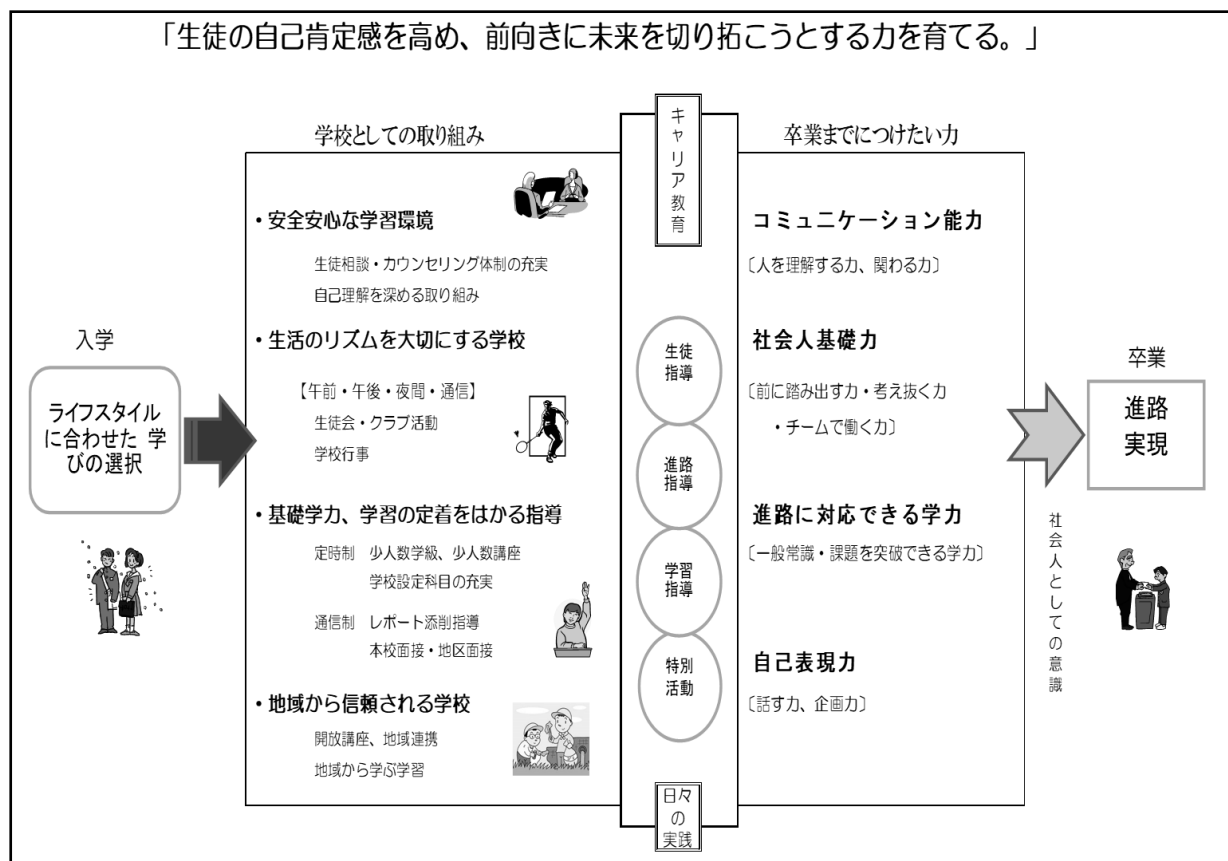
【中・長期目標】

「心あらたな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が、安心して学習できる環境をつくり、社会の一員として生きる力を育成する。

【令和3年度の目標】

- いじめや暴力を絶対許さない安心安全な学校をつくる。
- 挨拶に始まるコミュニケーション力と社会性を育てる。
- わかる授業・伸ばす指導を工夫して基礎的な学力を定着させる。
- 地域に開かれ、地域とつながった学校をつくる。

【グランドデザイン】



【校章の由来】



校章の三角形は北アルプスの峻嶺をかたどるとともに、本校独特の定時制（午前部午後部・夜間部）と通信制の三者の共存を意味し、同時に真善美を追求する澄んだ心を象徴する。

また、中央の円は和を尊び、円満で豊かな人間形成と明るい校風の樹立を目指すもの、中心に大きく入れた高の字は、誇りと勇気と自信に満ちた松本筑摩高校生の姿を表すものである。

【校歌】

松本筑摩高等学校校歌
谷川俊太郎

ああ松本筑摩高校
くれき野に我等は歌う
喜ぶの明日へ向って
ふるさとの地球をええ
青空へのぼる手が
わたる心託して
山をこえ風と戦い
くれき野に我等は集う
通いあう心信じて
友達とむすぶ手が
傷ついた世界をええ
山をこえ風と戦い
くれき野に我等は集う
魂の地をふるかに
限りない未来をつくる
鉛筆をはさむ手が
問いかける心あな
松本筑摩高等学校校歌
谷川俊太郎

谷川 俊太郎氏 自筆

(2) 生徒の状況 (令和3年10月1日 時点)

【本校在籍生徒数】(休学者、不活動生を含む)

定時制 午前部午後部	男	2 1 2 名	計 3 4 1 名	本校総計 1 2 0 2 名
	女	1 2 9 名		
定時制 夜間部	男	1 4 名	計 2 4 名	
	女	1 0 名		
通信制 (桐教室・併修生含む)	男	4 8 2 名	計 8 3 7 名 (活動生 2 8 2 名)	
	女	3 5 5 名		

※桐教室・・・松本少年刑務所内の通信制課程分教室、令和3年度は10名が在籍

【居住地別 活動生徒数】(併修生・桐教室を除く270人)

安曇地区(9市町村)	65名
松本地区	122名
木曽・塩尻地区(9市町村)	17名
諏訪地区(6市町村)	38名
伊那地区(8市町村)	22名
飯田地区(14市町村)	6名

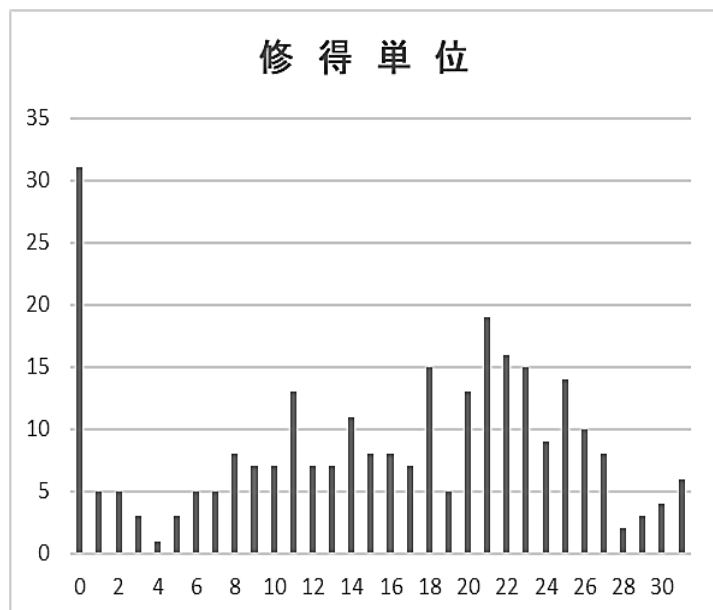
南北に長く広い中・南信の各地から、
遠方に住む生徒は電車だけでなく、
高速バスで通学することもある。
週に1・2回の登校とはいえ、遠距離
の通学に心身が疲れてしまう生徒
も、多々見受けられる。

【年齢別 活動生徒数】

15歳～19歳	199名(71%)
20歳～29歳	68名(24%)
30歳～39歳	11名(4%)
40歳～49歳	4名(1%)

10～20代の生徒が大多数を
占めているが、学校内そして生
徒は非常に落ち着いている。
学力差は大きい。
生徒指導事案は大変少ない。

【令和3年度 修得単位数】(令和4年3月16日時点の併修生を除く280名)



119名の生徒が20単位以
上を修得し、進級・卒業した
ことは大変喜ばしいことであ
り、生徒のたゆまぬ努力の賜
物である。
しかし、受講登録はしたもの
の、今年度0単位であった生
徒が31名と1割強いること
は課題である。

2. 研究の背景と目的

【背 景】

(1) ICT機器について

- 電子黒板・・・令和4年2月によりやうく教室に設置された（7台）。以前は定時制から借用していた。
- タブレット・・・本校全体で84台（BYODで支給されたものは除く）だが、通信制生徒が使用できるものは0台。要望は出しているものの、令和2・3年度内には叶わなかった。
- プロジェクター・・・通信制専用で利用できるものは3台。
- 大型モニター・・・音楽・美術・書道教室に各1台 計3台。
- ネットワーク・・・以前より各教室にWi-Fi環境は整っていたが、パスワードを生徒には公表していないため、生徒はWi-Fiを利用することができない。
(他課程との合意が得られず、公表に至らなかった。令和4年4月よりパスワードを公表し、生徒も利用できることになった)

(2) 面接時における教員のICT活用状況（面接を行う教員は22名）

- 電子黒板
面接時に使用する教員は1～2名。電子黒板が通信制に設置された令和4年2月以前は、別棟の定時制から借りてこななければならない、電子黒板の積極的な利用は難しかった。
- パソコン、プロジェクター、大型モニター
面接時に使用する教員は6～7名（NHK高校講座の活用や、パワーポイント等に利用）。

- ・通信制教員の年齢層は高く（平均年齢は約56歳）、パソコンやICT機器に苦手意識を持つ教員も多い。
- ・全日制や定時制のように通信制へのBYOD導入が未定であり、そのため通信制へのタブレット支給も未定である。現状では、長野県が掲げている『クラウドを用いて実現する主体的・対話的で深い学び』は難しいことも、教員の積極的なICT活用につながらない要因の一つだと考えている。
- ・面接時にレポート解説を期待する生徒も多く、それに加え、出席時数も様々な生徒が何人出席するのか予測できない1コマ50分の面接の中で、端末を生徒・教員双方が使用した面接内容を行うことが困難であることも事実である。

(3) 生徒との連絡手段

手 段	人 数	備 考
電話	22名／22名	私物スマホも使用する教員は3名
郵送	22名／22名	広報誌やレポート返却等に同封
SMS	10名／22名	当然だが私用スマホを使用
メールアプリ	5名／22名	
L I N E	2名／22名	

- ・生徒との連絡手段のメインは“電話”“郵送”である。しかし、学校からの電話（学校の番号を登録している生徒は本当に少ない）に出ないことや、“学校からの電話”に拒否感がある生徒・保護者もあり、担任は苦労している。
- ・SMSやメールで連絡する担任もいるが、年齢の若い生徒ほど、スマホでのメッセージのやり取りはL I N Eやその他SNSであることが多く、SMSやメールアプリを見ない・使用しない場合が多い（未読 数百件 等）。
- ・L I N Eを生徒との通信手段にしている教員はわずかである。
- ・面接時以外に教科に関する連絡をする場合は、担任経由で生徒へ伝えるか、郵送、または昇降口に掲示である。

(4) レポート提出の手段

レポート提出は郵送、または学校のポストに直接投函か、教員へ直接提出する。

(5) オンラインシステムの利用について

- ・中部電力が提供する連絡網サービス「きずなネット」は以前より使用していた。
- ・グーグルクラスルームやクッラシー等のオンラインシステムの利用はなし。

以上(1)～(5)までが本校の生徒に関係するICT活用の現状である。

面接出席の登録や成績処理、要録作成等は校内システムで効率的に業務を行う体制が整っているが、生徒との通信手段は極めてアナログであり、おそらく本校開校以来変わっていないと言っても過言ではない。

新型コロナウイルス感染症による臨時休校の際、多くの学校でオンライン授業が行われたが、本校通信制ではオンライン授業は行われなかった。その理由の一つとして、(5)にある通り、オンラインシステムへの登録・利用がなかったことがあげられる。毎日登校しクラスのほぼ全員が揃うホームルームで登録を行い…といったことが難しいため、避けられてきたのではと考える。

【目 的】

アナログな通信手段に加え、オンラインシステムも利用することで、生徒・教員双方にメリットがあることは言うまでもない。また、長野県は大雨や大雪、台風による電車の運休や、高速道路の通行止めが多々ある。さらに、令和3年10月の郵便法改正に伴い、配達が以前より遅くなることもあり、郵送に代わるレポートの提出手段を講じる必要があると、強く感じた。

以上のことを踏まえ、全国的にはオンラインシステムの活用が進む中、遅ればせながら、本校もその一歩を進めるべく、次の目的を設定した。

- 全生徒にグーグルアカウントの配布、グーグルクラスルームへの登録
- ホームルーム のクラスへの参加
- 科目のクラスへの参加
- グーグルクラスルームを利用したレポートの提出

3. 取り組み

≪ 全生徒にグーグルアカウントの配布、グーグルクラスルームへの登録 ≫

(1) アカウントの配布・登録（桐教室を除く272名）

令和2年度 3月	受講手続き・終業式時のホームルーム
令和3年度 4月	前期入学式後のホームルーム

※この時点でのグーグルクラスルームへの登録者は、184名／236名であった。

令和3年度10月	後期入学式後のホームルーム
令和3年度 8月・12月	授業アンケートをGmailで送信し、回答のあった生徒には “特別活動1時間”とした。 回答は前期60名、後期64名であった。 (昨年度は前期21名、後期23名)

※上記のほか、面接時や昼休みに行われる地区活動の際に、未登録の生徒に声をかけるなど、登録を促した。

多くの教員の協力もあり、最終的な登録は208名／272名となった。

(2) 課題

端末にロックが設定されていないとログインができない、保護者の使用制限がかかっていてクラスルームのアプリがインストールできない、すでに別のアカウントでグーグルにログインしていて、アカウントの切り替えに手間取る 等々、スムーズに登録作業が進まないことが多々あった。比較的そういった作業に慣れ、詳しい教員がサポートに入ったりもしたが、生徒だけでなく、教員も手間取っていたことは、今後の大きな課題である。次年度は入学前に資料を配布し、事前準備を前もって行ってもらう等の対策をしたい。

《 ホームルーム のクラスへの参加 》

(1) 招待・参加

1年～4年まで すべてのクラスを作成し招待。参加の結果は以下のとおりである。

1 A	10名／15名
1 B	11名／16名
1 C	11名／16名

2 A	14名／18名
2 B	16名／19名
2 C	12名／18名
2 D	18名／18名

3 A	13名／18名
3 B	15名／18名
3 C	13名／18名
3 D	12名／18名
3 E	14名／18名

4 A	14名／20名
4 B	12名／20名
4 C	14名／20名

- ・レポート合格締切間際の緊急連絡の手段はやはり電話であったが、その他の連絡事項や印刷物での連絡はグーグルクラスルームを積極的に利用していただいた。
- ・クラスへの参加の際に、グーグルクラスルームのアプリを利用している生徒には、通知をONにすることも併せて行った。
- ・以前 印刷物は全て返却するレポートに同封するか、隔月で発刊している広報誌に同封し郵送していた。クラスルームを利用することでわずかであるが、郵送料を削減することもできた。
- ・連絡事項を「質問」で行うことによって、既読確認をすることもできた。

(2) 課題

登録が100%ではないため、担任は未登録の生徒を把握し、個別に連絡や、配布物を郵送する必要がある、それが余計手間に感じた という声もあった。

《 科目 のクラスへの参加 》

(1) 招待・参加

全ての教科で行うことはできなかったが、比較的連絡事項の多い科目、出席の有無を事前に確認したい科目でクラスを作成した。

音楽Ⅰ	20名／25名	・出席の有無を確認することで、楽器の準備や楽譜の印刷等、無駄なく行うことができた。 ・面接時に配布した資料をクラスルームで配布し、欠席した生徒も見ることができるようにした。
音楽Ⅱ	11名／11名	
書道Ⅰ	24名／31名	・芸術教科の中で受講者が一番多いが、教室の座席数が少ないため、空席がなく急遽机と椅子を運ぶなどの対応をすることもあった。出席の有無を事前に知ること、広い教室を予約し面接を行うなど、慌てることなく対応することができた。
書道Ⅱ	9名／9名	
体育（女子）	90名／140名	・蜜を回避するために立ち位置にカードを置いている。その準備や、使用する器具の準備等 効率的に行うことができた。
情報処理	22名／30名	・面接時のスライド資料に音声を実録で入れ、クラスルームで視聴できるようにした。 ・面接に出席しなければならないレポートもあるため、その連絡をクラスルームで行った。 (以前は担任経由で連絡していた)
ビジネス基礎	30名／44名	
簿記	16名／17名	

(2) 課題

- ・《 ホームルーム のクラスへの参加 》と同様に、受講者全員が登録・参加してはいないので、クラスルームに加えて個別の連絡が必要な場合もあった。
- ・出席者数をおおよそ知ることができたことはありがたかったが、クラスへ参加していない生徒や、参加していても出席の有無に回答しない生徒も当然いるので、これについては限界を感じている。
- ・商業科目のように、面接時のスライドや解説動画をクラスルームで配信する科目が増えれば、生徒のより良い学習につながるが、現状では、それらを作成することが難しい教員も多くいる。その改善策を理解はしているが、全教員が実施することは非常に困難である。

《 グーグルクラスルームを利用したレポートの提出 》

(1) NHK高校講座 視聴レポートの提出

本校ではNHK高校講座 視聴レポートの提出による出席代替の認定を次のように定めている。

- ・30分番組×1本 または 20分番組×2本 で面接1時間が認められる
- ・番組1本につきレポート（A4裏・表）1枚の提出
- ・必要面接時数の1／3まで

※例年10名～20名の生徒が視聴レポートを提出し、出席代替を認められている。

以前は、郵送で提出し郵送で返却していたレポートを、様式をドキュメントで作成し、グーグルクラスルームで提出・返却を行う。（音楽1名、書道2名、現代文1名、世界史1名）
（記入する内容や量は、以前と大きな変更はない）

NHK高校講座 視聴レポート		松本筑摩高等学校通信制	
※本枠内を記入し、提出してください。 ※20分番組 2回分(この用紙を2枚提出)で、本校面接1時間の出席として認定します。			
登録番号		クラス	氏名
科目名			
放送の種類 該当する 欄に○	NHK高校講座(テレビ)20分	講座名	
	NHK高校講座(ラジオ)20分	講座名	
	NHK高校講座(ネット)20分	講座名	
	教科による教材	タイトル	
	その他の放送番組	番組名	
放送視聴日時			
評価	☐ 1. 面接()時間として、認定します。 ☐ 2. 内容が十分のため、認められません。 月()日()までに再度提出してください。		
1. 視聴した内容やポイントがわかるようにまとめてください。(11ptで30行以上 記入すること)			

2. 視聴した内容に關する、あなたの感想を書いてください。(11ptで20行以上 記入すること)			
視聴レポート(放送番組)視聴元	放送(視聴)年月日		
クラス	登録番号	氏名	
科目			
評価	☐ 1. 面接()時間として、認定します。 ☐ 2. 内容が十分のため、認められません。 月()日()までに再度提出してください。		
視聴レポート(放送番組)視聴元	放送(視聴)年月日		
クラス	登録番号	氏名	
科目			
評価	☐ 1. 面接()時間として、認定します。 ☐ 2. 内容が十分のため、認められません。 月()日()までに再度提出してください。		
教科担任より			

(2) 生徒の感想

- ・NHK高校講座視聴レポートの提出は初めてで、以前と比較はできないが、自分はパソコンの入力が苦手ではないので、手書きよりもはかどったような気がした。
- ・クラスルームで課題を提出するのが初めてで心配もあったが割とスムーズにできたと思う。
- ・手書きで提出したこともあったけど、大変さはあまり変わらないと思った。
- ・電車が運休になり地区面接に出席できず、必要面接時数が足りなかった。期末テストの受験願締切日が迫っていて焦っていたが、クラスルームで提出すると「いつ学校に届くか」という不安がなくてよかった。

- ・今回は5名全員が自宅にパソコンがある生徒であったため、入力の大変さはあまりなかったようである。
- ・提出に戸惑っている生徒もいたが、おおむね好評であった。
- ・“クラスルームで提出すると「いつ学校に届くか」という不安がなくてよかった”という生徒の感想は、今回の研究の1番の目的であった“郵便に変わる通信手段”のメリットを生徒も感じてくれたので、嬉しく思った。

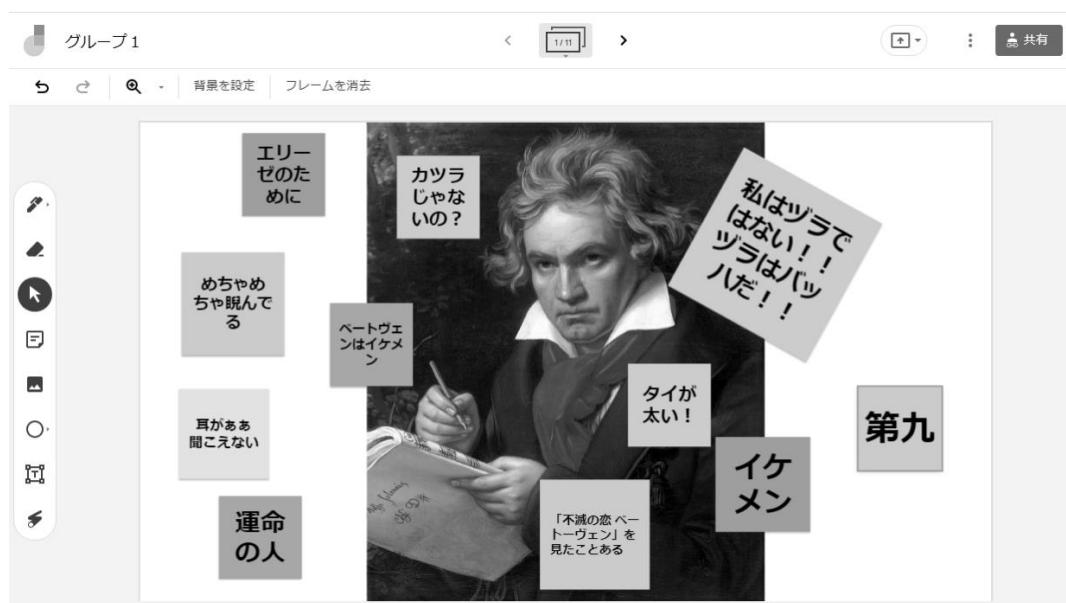
(3) 課題

- ・スマホでの入力を考えると、様式の工夫は必要だと感じた。
- ・パソコンでの入力は、コピー＆ペーストが可能であるため、今後どのように対策していくかは課題である。
- ・今回の4科目の教員は、比較的パソコンやグーグルクラスルームに慣れている教員であったため、課題を出し添削し返却するといった作業が特に問題なく行えたが、現状ではそれらを行うことが難しい教員もいるため、クラスルームでのやり取りを今後どう定着させていくか考えていかなければならない。

4. その他の取り組み

通信手段ではないが音楽Ⅱの面接時に Jamboard を使った鑑賞の授業を行った。(出席者4名)

“聖なる音楽家”「楽聖」と呼ばれたベートーヴェン(1770—1827)



交響曲第6番《田園》 第1楽章：田舎に着いて起こる、はればれとした気分の目覚め

グループ1

6/11

背景を設定 フレームを消去

最初に戻った？

ジャジャジャジャーンとは全然違う

穏やか

笛は鳥を表している？

耳が聞こえないのにどうやって作曲したの？

音聞いた風の音とか鳥の鳴き声を思い出したんじゃない？

同じメロディが何回も出てくる

ベートーベンは何を思いながらこの曲を作ったのかな

さわやかな風を感じるオレ

優しい優雅

強弱がすごい

ウン十年前のサイトウキネンの演奏を思い出す

第4楽章：雷雨・嵐

グループ1

7/11

背景を設定 フレームを消去

怖い曲はきらい

嵐だ

急展開すぎて草

さっきの穏やかだった田園はどこへ行った

ゲームの戦闘中のBGM

なんでベートーベンはこんな曲にしたのか

ギャップが欲しかったんじゃないかと

ひびいた！！！！

あ、落ち着いた

嵐過ぎ去った？

- ・音楽Ⅱは毎時間の出席者が3名～7名程度と少なく、Jamboardの使い方と比較的簡単であるため実施した。
- ・鑑賞を行っても、感じたことを生徒が発言しそれを皆で共有するといった授業は、通信制ではとても難しかった。Jamboardは誰が書いた付箋かを判別することが難しいことに加え、スマホでの入力SNSでメッセージを送るような気楽さもあり、積極的な発言（付箋）につながった。
- ・他の生徒の感想を受け、それに答えるような発言もあり、今までとは違う鑑賞の面接を行うことができた。

5. まとめ

(1) 教員の感想

【全教員】

- ・前々から何かオンラインシステムを導入してほしいと思っていたので今回はよい機会だった。
- ・アカウントの作成は思ったより大変ではなかった。
- ・自分がパソコンはおろか、スマホの操作もよくわからないので、ホームルームで自分だけでは登録の指導はできなかったと思う。
- ・あまり利用することがなかったので、メリットはあまり感じられなかった。
- ・クラスルームの質問で“連絡→既読の確認”ができたことで、電話連絡の手間が減ったことはありがたかった。
- ・ホームルームの生徒は毎年変わるので、毎年クラスへの参加を促したり、アカウントへの登録をさせるのは、正直面倒だと思っている。
- ・プリントを郵送しても見たのか見ていないのかの確認はできないため、既読確認ができるのは大きいと思った。
- ・前任校で、LINEでクラスのグループを作って、そこで連絡・確認を行っていたが、私用のスマホを使うことに抵抗があったので、クラスルームはよかった。
- ・クラスルームの利用は積極的ではなかったが使いこなせば便利なものであることは理解した。

【科目で利用した教員】

- ・今日の面接に何人くらい来るのか、出席時数がぎりぎりのあの生徒は来るのか、ということはある程度事前に知ることができたのは、とてもよかった。(複数)
- ・以前は、欠席した生徒には面接で配布した資料を登校した際に渡したり、希望があれば郵送していたが、クラスルームを使うことでそういった手間が省けた。面接のスライドをクラスルームで視聴できるようにしたことも、欠席した生徒だけでなく、面接時にあまり理解できなかった生徒の復習にもなった。
- ・音楽は理論や鑑賞の授業はオンラインで行うことが可能だが、楽器を実際に弾きながら学習することはオンラインでは難しい。今まで器楽演奏の面接に欠席した生徒への資料配布等は行ってこなかったが、クラスルームで資料した資料を見て、「楽器を弾いてみたい」という申し出があり、とても嬉しかった。

【NHK高校講座視聴レポートで利用した教員】

- ・パソコン操作や入力に慣れている生徒はよいが、スマホでの入力は大変だろうし改善が必要。
- ・前期卒業を控えている生徒が不測の事態で視聴レポートを提出することになったが、クラスルームで提出することで締め切りに間に合い、安心した。

(2)最後に

研究担当者の私は、十数年前に数年間 松本筑摩高校通信制に勤務していたことがあった。十数年ぶりに赴任してきた令和3年4月、以前と全く変わらない“通信”制であったことに、驚いたことを覚えている。

郵便という通信手段は、誰もが行える手段であり、普遍的で今後も大きく変わることはない。そういったものを利用してきたからこそ、通信制課程は世の中の変化に左右されることなく、今日まであり続けることができ、また、本校通信制課程分教室 桐教室のような特殊な環境にいなながらも、高校を卒業することができるのである。

本校開校以来変わることのなかった通信手段に、新しい手段を取り入れ、実際の運用は1年足らずであったが、大きなメリットを感じ、成果を得ることができた。しかし、まだ多数の教員がグーグルクラスルームを使いこなすには至らず、また、スマホを持っていない生徒や、自宅にパソコンがない、Wi-Fiがない等々、すべての生徒にメリットがある手段ではないことも事実である。

今後の課題は各項目に記述したとおりであるが、最大の課題は、クラスルームの利用を教員・生徒双方にとってスタンダードなものにしていくこと、全ての教員が等しく運用できるようにしていくことである。今すぐ・明日からではなく、少しずつ・些細なこと から始め、クラスルームや、今後導入されるかもしれない新たなオンラインシステムに、柔軟に対応していければ、と思っている。そのために、微力ながら私にできることは精一杯 取り組んでいきたい。

最後に、本研究を進めるにあたりご協力をいただいた本校通信制の先生方、ご指導ご鞭撻を賜りました学校の先生方、深く感謝しお礼を申し上げます。